

●社長交代記者発表会 質疑応答要旨

日時 : 2009年9月25日(金) 19:00~19:45
場所 : 富士通汐留本社 24階大会議室
登壇者 : 代表取締役会長 兼 社長 間塚 道義
執行役員常務 藤田 正美

- Q. 野副社長は、2009年度内に国内の営業改革を仕上げると話していましたが、この方針に変更はあるのでしょうか？また、2004年から実施している営業/SEの一体化〔SBR＝ソリューション・ビジネス・リストラクチャリング〕は今後どうなるのでしょうか？
- A. (間塚)私は、30年近く製造業の営業を担当し、その後、東日本の営業本部長、そして常務時代には事業推進を2年間務めました。その時に、私が営業サイド、野副がSEサイドに立って、一緒にSBRを推進してきました。今回の業種別の営業体制への変更は、当初から考えていた内容であり、2009年度内に仕上げる方針に変更はありません。陸上競技に例えるなら、富士通の営業は第3、第4コーナーから強いと言われてきましたが、これを第1コーナーから強い体制にするために業種別の体制にしていきます。
- Q. 辞任の申し出は、いつ、どのようにあったのですか？
- A. (間塚)本日の取締役会の前に、私に辞任の申し出がありました。野副は入社しており、「病気のためこれからは治療に専念したい。そのためには社長の職務を全うできない。」という旨の申し出を、直接面談して受けました。
- Q. 会長が社長を兼任する理由や経緯を教えてください。
- A. (間塚)本日、突然辞任の申し出がありました。後任については考えていなかったため、私が兼任することになりました。
- Q. なぜ本日付で社長を兼任されるという決定に至ったのですか？
- A. (間塚)野副自身が「取締役会の決定が必要な事柄であるため、本日の取締役会の前に辞任を申し入れ、取締役会で了承を貰いたい」という考えがあったため、結果として本日付になりました。
- Q. 次期社長はいつ頃決まる予定ですか？
- A. (間塚)しかるべき時期に次の社長を選任したいと考えていますが、具体的な時期は決めていません。富士通として正式に決定した訳ではありませんが、任意の形で指名委員会のような仕組みを立ち上げたいと考えています。
- (藤田)もともと富士通は委員会等設置会社ではないので、現状、指名委員会は存在していません。今回の社長の辞任とは全く関係なく、経営の透明性を確保することを目的として、指名委員会を立ち上げることを従前から計画していました。実際にそれを下期に立ち上げ、その委員会の中で次期の経営体制を検討していこうと考えている、ということです。ただ、次期の経営体制を決定する時期については、現時点では全く決まっていません。

Q. いつ頃になりそうですか？年内には決定しますか？

A. (間塚)選任の仕組みは下期中のできるだけ早い時期に決定し、具体的に進めていきたいと考えています。その仕組みの中で様々な意見を出し合い、次期社長を検討していきたいと考えています。

Q. 取締役以外からの社長選任も有り得ますか？

A. (間塚)今の段階では全く考えていません。指名委員会の中で議論していきたいと考えています。

Q. 7月の経営方針説明会で中期計画を発表しましたが、その内容は新体制で見直すのでしょうか？

A. (間塚)中期計画は皆で検討して立てたものであり、今回の件を理由に変更することはありません。すでに、各ビジネスグループで具体的に推進しています。11月に行う経営品質向上活動(JQA)の会議でも、各ビジネスグループの進捗を確認しながら推進していくつもりです。

Q. 半導体事業では、製造面での目処が立ったようですが、経営統合などについては結論が出ていないと思います。間塚会長は、半導体事業を富士通グループとして持ち続けるべきと考えていますか？それとも、シンプルにシステム分野に集中すべきと考えていますか？

A. (間塚)半導体事業については、先日富士通マイクロエレクトロニクスが説明会を行いました。私もまずはしっかりと半導体事業が成り立つ体制を富士通グループの中で作り上げていくことが最も重要だと考えています。その後で、経営統合などをどう考えるか議論をしていきたいと思っています。将来的に事業を継続するのか、しないのか、継続する場合は富士通単独でやっていくのかという点についての結論は、現時点では出していません。

Q. 富士通の置かれている経営環境をどのように考えていますか？

A. (間塚)今年度のIT投資は非常に厳しい状況と感じています。積極的なお客様、そうでないお客様がまちまちではありますが、総じて厳しい状況です。そのような認識の下で経営にあたっていきたいと考えています。しかし、下期からは厳しい経営環境が多少緩和され、IT投資も再開されてくるのではないかと、という期待感も持っています。

Q. 社内に対してのメッセージ発信は行いましたか？

A. (間塚)野副はこれまでアグレッシブに構造改革を推進してきましたので、お客様や取引先、従業員は心配していることと思います。社内に対しては「このような事態となったので私が社長を兼務する。全員でこの状況を乗り切っていこう」という内容のメッセージを発信しました。

Q. 何にプライオリティを置いて経営にあたるつもりですか？

A. (間塚)いかに受注を上げていくかが重要だと思っています。会長に就任した時から、

お客様やパートナーを中心にご意見を伺い、経営に反映する役割を果たしてきました。今後は、本日の件も含めてより一層お客様と会話をし、お客様の経営に役に立つ提案をしていきたいと思っています。先ほど SBR に関しての話がありましたが、現在はそれだけではなく、JQA も推進しています。また、アカウントプランやパイプラインマネジメント、フィールドイノベータなどの取り組みも進めています。それらを一気に通貫にしていくことが重要です。また、経営に直結するようなシステムに関して、お客様と一緒に知恵を出し合うことが重要だと考えています。

Q. 自分自身の性格をどのように自己分析していますか？また、それをどう経営に発揮していきますか？

A. (間塚)私はコツコツと努力を積み上げる性格だと思っています。富士通のソリューションビジネスは、お客様との信頼関係を築き、新しいビジネスに繋げていくスタイルです。信頼関係を築き、コツコツと積み上げていくという意味では、私の性格は富士通の経営に向いているのではないかと考えています。

Q. 間塚会長はこれまでの野副社長の路線を肯定的に捉えています。逆にこの部分は修正したいと考えているところはあるでしょうか？

A. (間塚)現時点で修正すべき点はありません。今までの路線に沿って、具体的に実行していきます。ビジネスプランはできたので、今後それをいかに実行し、その進捗をきちんと確認していくことが、私の当座の役目だと思っています。

以上